

ナガエツルノゲイトウ
に係る全国会議
2021年10月15日～26日

農耕地におけるナガエツルノゲイトウ の防除に向けた除草剤体系

農研機構 植物防疫研究部門
井原 希

水田に侵入するナガエツルノゲイトウ



水稻を支えに立ち上がり
水稻と競合

水稻に覆いかぶさると
収穫作業の阻害や収穫
不能になることも



ひとたび定着すると防除困難



使用している農薬の種類によって、慣行の除草剤処理体系では防除困難となる場合がある

↓耕盤まで達する直根

一度まん延すると短期間での根絶は困難





農道にも侵入・定着する



畦畔では地下部を密に発達

畦畔の個体は本田にも影響を与える



畦畔から茎を伸ばして本田
に侵入

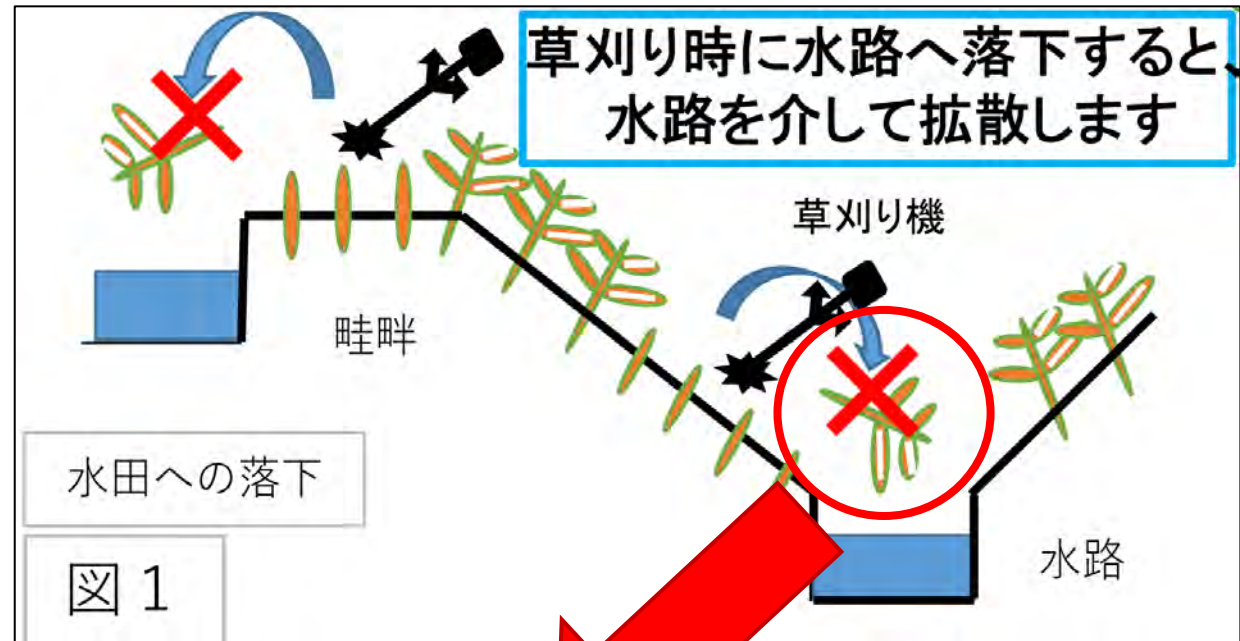
畦畔際の本田に定着・
萌芽する



刈払い管理が分布拡大の一因になる



刈払い管理でナガエ
ツルノゲイトウが
優占



(千葉県農林水産技術会議 より)



茎断片から再生

刈払い管理によって周辺に多量の断片が供給

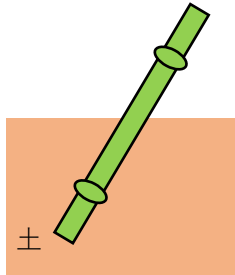
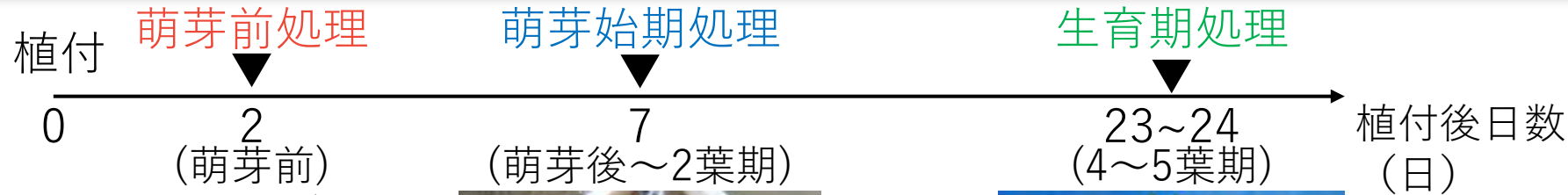
- 水稻栽培期間中の防除技術
- 水田畦畔における刈払い管理に代わる管理技術



農薬（除草剤）を
使った防除技術の開発

- 1) 有効除草剤の選抜
- 2) 選抜除草剤の野外での防除効果の評価

有効な除草剤のスクリーニング



1/5,000aポット
3～5株/ポット植付

植付日: 4月20日, 6月9日, 8月24日



水稻用除草剤：18種類
水田畦畔用除草剤：7種類*
の防除効果を評価

*水田畦畔用除草剤としての農薬登録がない
薬剤を含む



萌芽前処理-処理30日後の様子

植付日:
4月20日



無処理



イマゾスルフロンの粒剤



イマゾスルフロンの粒剤・ピラクロニル・ブロモブチド水和剤



ダイムロンの粒剤・メタゾスルフロンの粒剤



ピラクロニルの水和剤



ピラゾレート粒剤



プレチラクロール粒剤



プレチラクロール・ベンゾビシクロンの水和剤



プロピリスルフロンの粒剤

萌芽始期処理-処理29日後の様子



無処理



イマゾスルフロン粒剤



イマゾスルフロン・ピラクロニル・ブロモブチド水和剤



ダイムロン・メタゾスルフロン粒剤



ピラクロニル水和剤



プロピリスルフロン粒剤



ハロスルフロンメチル・メタゾスルフロン水和剤



ビスピリバックナトリウム塩2%液剤



フロルピラウキシフェンベンジル乳剤



ペノキスラム水和剤



ベンタゾン液剤

植付日:4月20日 9

生育期処理-処理29日後の様子



無処理



ハロスルフロンメチル・メタゾ
スルフロン水和剤



フロルピラウキシフェンベンジル乳
剤



ペノキスラム水和剤



ベンタゾン液剤



ビスピリバックナトリウム塩
2%液剤

植付日:4月20日

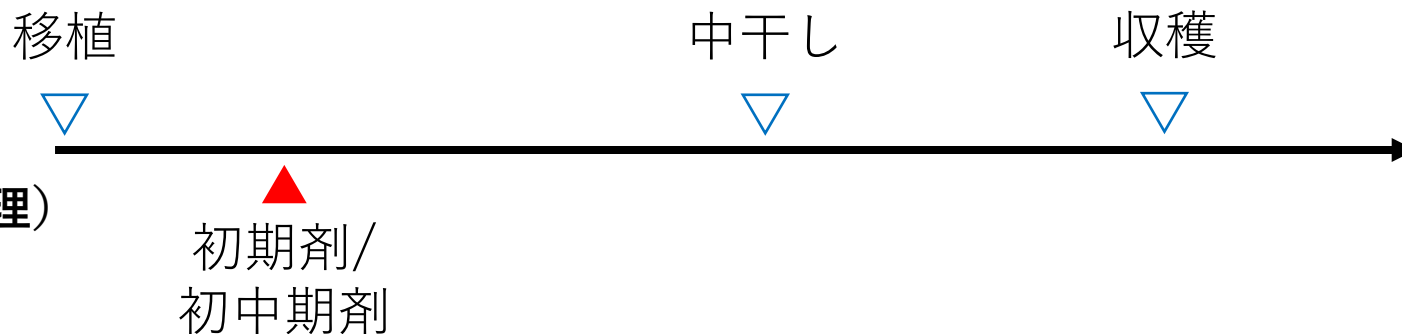


ナガエツルノゲイトウがまん延する現地圃場において14種類の処理を行い、防除効果を比較

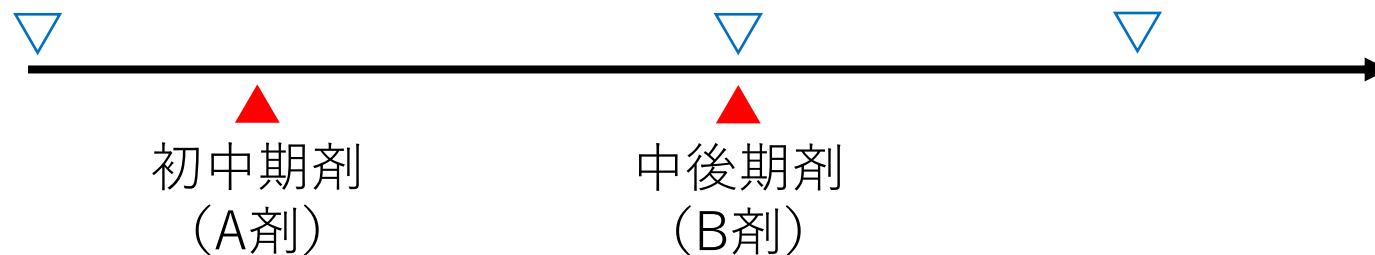
除草剤処理の内容

一般雑草 の防除

(除草剤1回処理)



地域慣行



供試体系

体系Ⅰ



体系Ⅱ



体系Ⅲ



* 供試した体系
のうち一部抜粋

除草効果一 1

無処理



除草剤1回処理
A剤



地域慣行
A剤→B剤

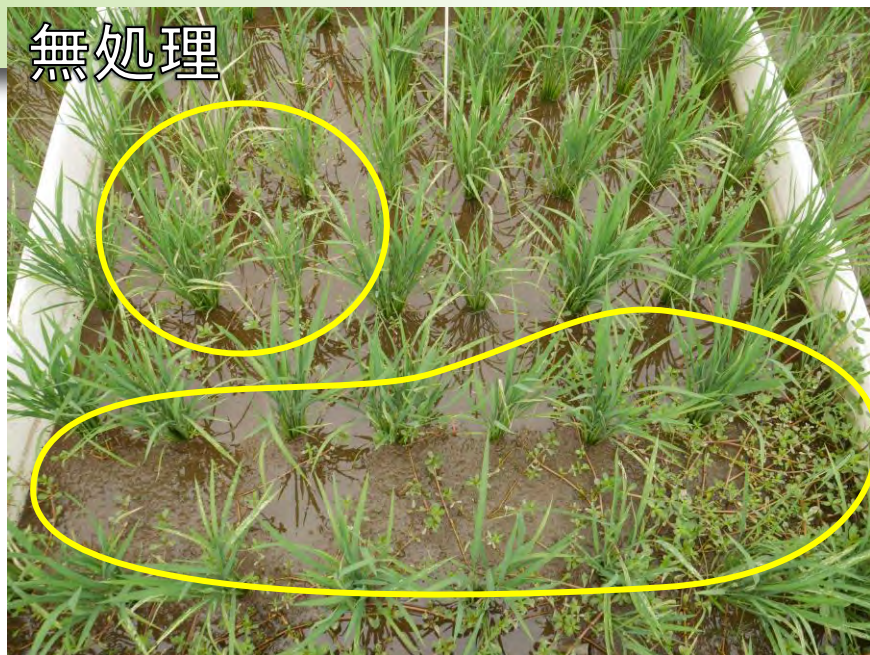


体系 I
A剤→C剤



撮影日：6月14日 (移植後48日)

除草効果－2



撮影日：6月7日（移植後41日）



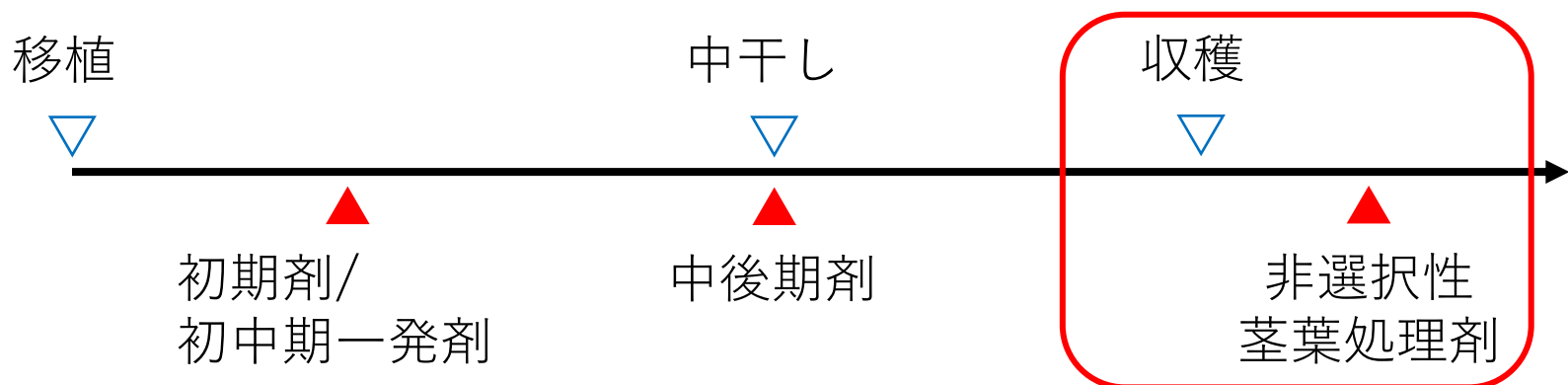
より有効な除草剤の成分や
その処理時期について試験中

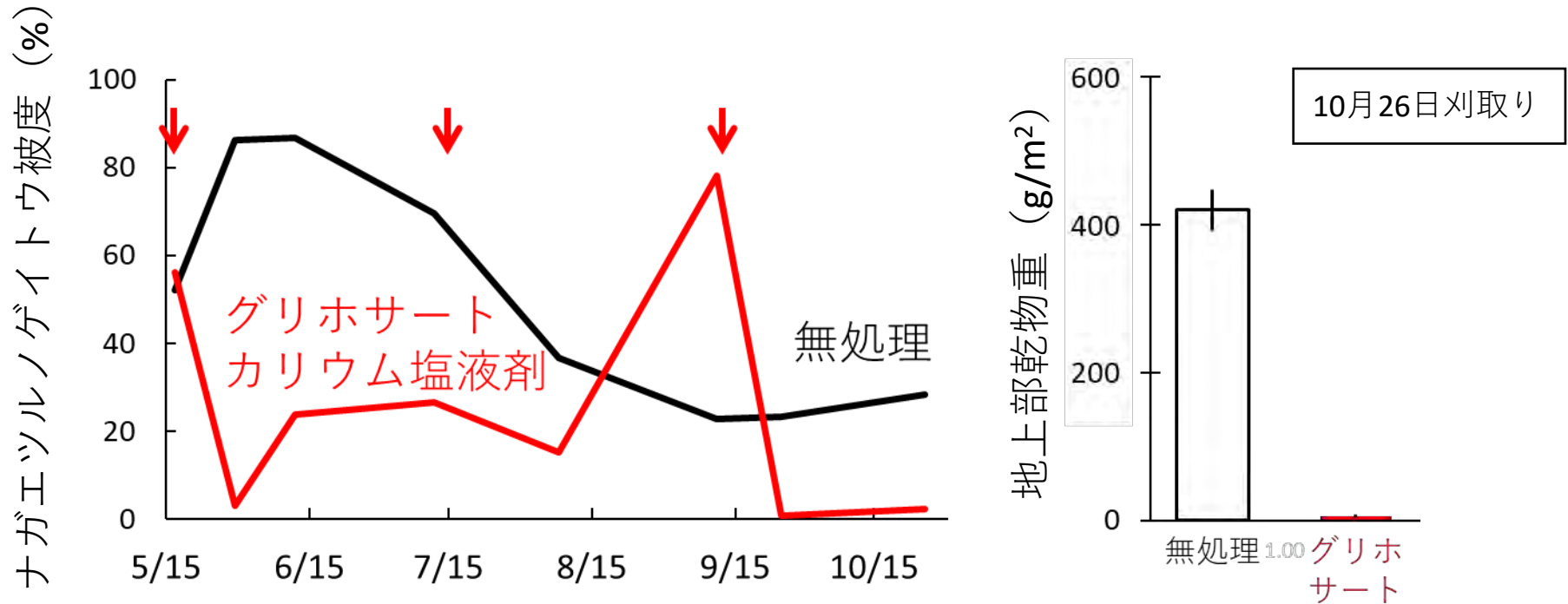
水稻收穫後にも再生する



水稻收穫後の防除を含めた、総合的な防除体系の確立に向けた試験を実施中

ひこばえの間から再生する





グリホサートでナガエツルノゲイトウの被度と地上部乾物重が低下

コスト・労力の観点から、より実効性の高い管理体系を検討中

- 本田・畦畔ともに、効果のある除草剤を適期に使用することでナガエツルノゲイトウを抑制することが可能
- 秋以降の管理を含む総合的な防除体系を確立するため、更なる研究が必要